令和７年６月２６日
記者発表資料
田川市安全安心まちづくり課

「災害から命を守る」ための一冊

―配布済みだからこそ、今あらためて伝えたいガイドブックの価値―

１　背景と目的

災害はいつ、どこで起きてもおかしくありません。近年、本市でも大雨による家屋の全壊や浸水、土砂災害などが発生しています。

こうした現実を踏まえ、市民の皆さんが「いざという時」に迷わず行動できるよう、本市では５年ごとに「災害対応ガイドブック」を見直してきました。

このたび、２回目の改訂を行い、最新の災害リスクや避難情報に対応したガイドブックが完成。令和７年３月に全世帯（24,228 世帯）に配布しました。

２　何が変わったのか―４つの進化のポイント

⑴　警戒レベルと避難行動の整理…ガイドブック P2

令和３年の「避難情報に関するガイドライン」の改定を踏まえ、警戒レベルや避難の判断基準をわかりやすく整理。「市民がとるべき行動」がひと目でわかるようにしました。

⑵　県管理河川のリスクも地図に反映…本資料 P5

これまでは国管理河川の浸水想定区域のみを掲載していましたが、今回から県管理河川の浸水想定区域も掲載。身近な河川のリスクを把握できるようにしました。

⑶　**土砂災害の可能性がある区域（未指定）も表示…本資料 P6**

現在の土砂災害警戒区域に加え、今後、県による調査を経て、危険個所とされる可能性がある場所も地図に掲載。区域指定の有無にかかわらず、土砂災害リスクに目を向ける工夫をしました。

⑷　**アプリ連携で音声・多言語対応も可能…ガイドブック裏表紙**

外国人や視覚に障がいのある方も情報を得られるよう、無料アプリ（カタログポケット）と連携。読み上げ機能や多言語表示機能で、誰にでも「届く防災」に進化しました。

３　ガイドブックを“配って終わり”にしない

このガイドブックは、配って終わりではありません。地域の防災力を高めるため、昨年度は自治会や事業所など１１団体で防災学習や避難訓練を実施。３２６人が参加し、使い方の理解を深めました。今後も地域と連携して、活用の場を広げていきます。

４　作成・配布の費用と財源

ガイドブックの作成	４,８４０千円
ガイドブックの配布	１,５００千円
合計	６,３４０千円

＊国・県からの補助　計３,０２５千円（国２,４１３千円　県６１２千円）

5　災害は他人事ではない

過去の主な災害を振り返ると、本市も災害にたびたび見舞われてきました。

発生年月	主な被害	避難の状況	備考
令和 3 年 8 月 ＊令和 3 年 8 月 11 日からの大雨	家屋全壊 ･････････2 棟 道路損壊 ･･････1 か所 土砂災害 ･･････4 か所	12 世帯・21 人避難	被災者生活再建支援法適用 家屋全壊世帯に最高 300 万円支給
平成 30 年 7 月 ＊西日本豪雨	床上浸水 ････････8 棟 床下浸水 ･･････13 棟 道路損壊 ･･････4 か所 道路冠水 ･････14 か所 土砂災害 ･････87 か所	147 世帯･266 人避難	岡山県倉敷市真備町の実際の浸水被害は、ハザードマップの浸水想定区域とほぼ一致との報道あり
平成 24 年 7 月 ＊九州北部豪雨	床上浸水 ････････6 棟 床下浸水 ･･････308 棟 土砂災害 ･････80 か所		
平成 17 年 3 月 ＊福岡県西方沖地震	最大震度 ･･････震度 4 軽傷者 ･･････････3 人 一部損壊 ････････1 棟		
平成 3 年 9 月 ＊台風 19 号	重傷者 ･･････････3 人 家屋全壊 ･･････14 棟 家屋半壊 ･･････266 棟 家屋一部損壊 ･･536 棟		

6　ガイドブックの入手方法

市役所（１階ロビー、３階安全安心まちづくり課)、市内公共施設に置いているほか、市のホームページでも閲覧できます。

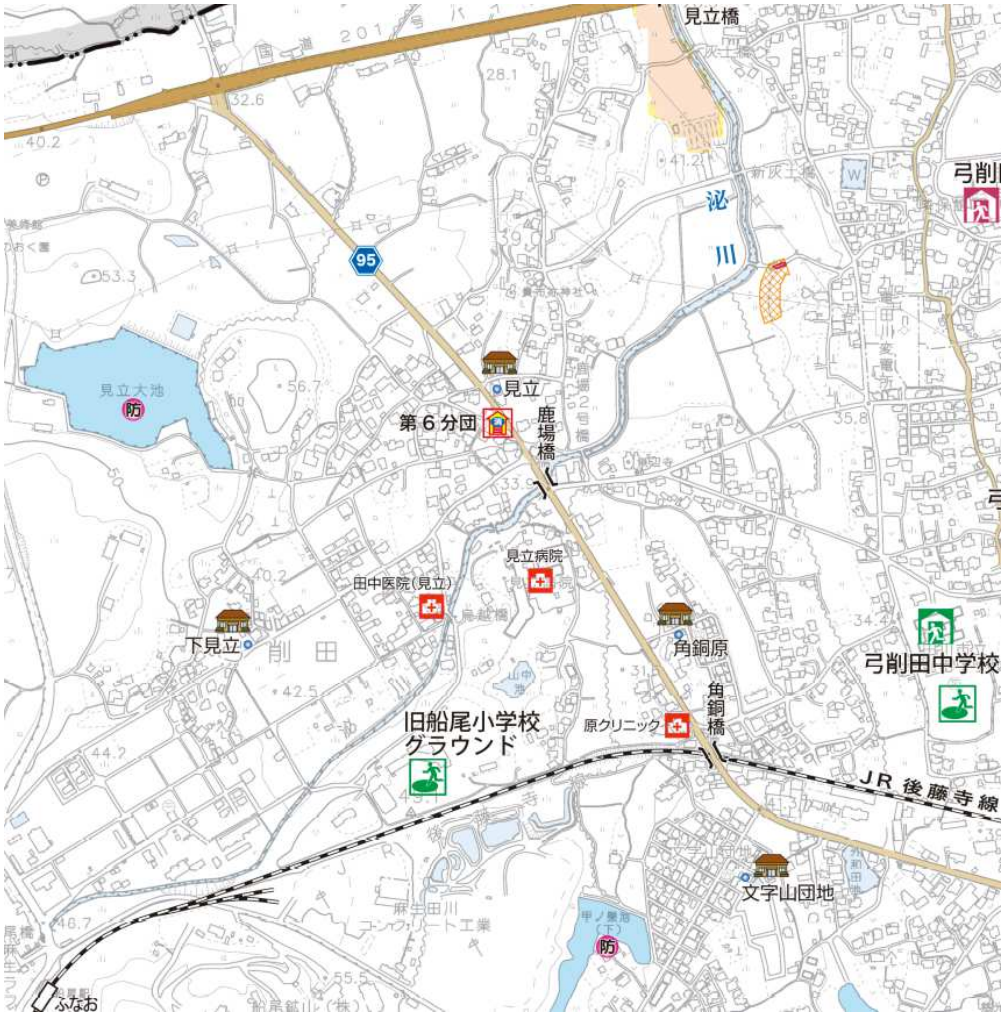
市ホームページ
災害対応ガイドブック→

7　問い合わせ

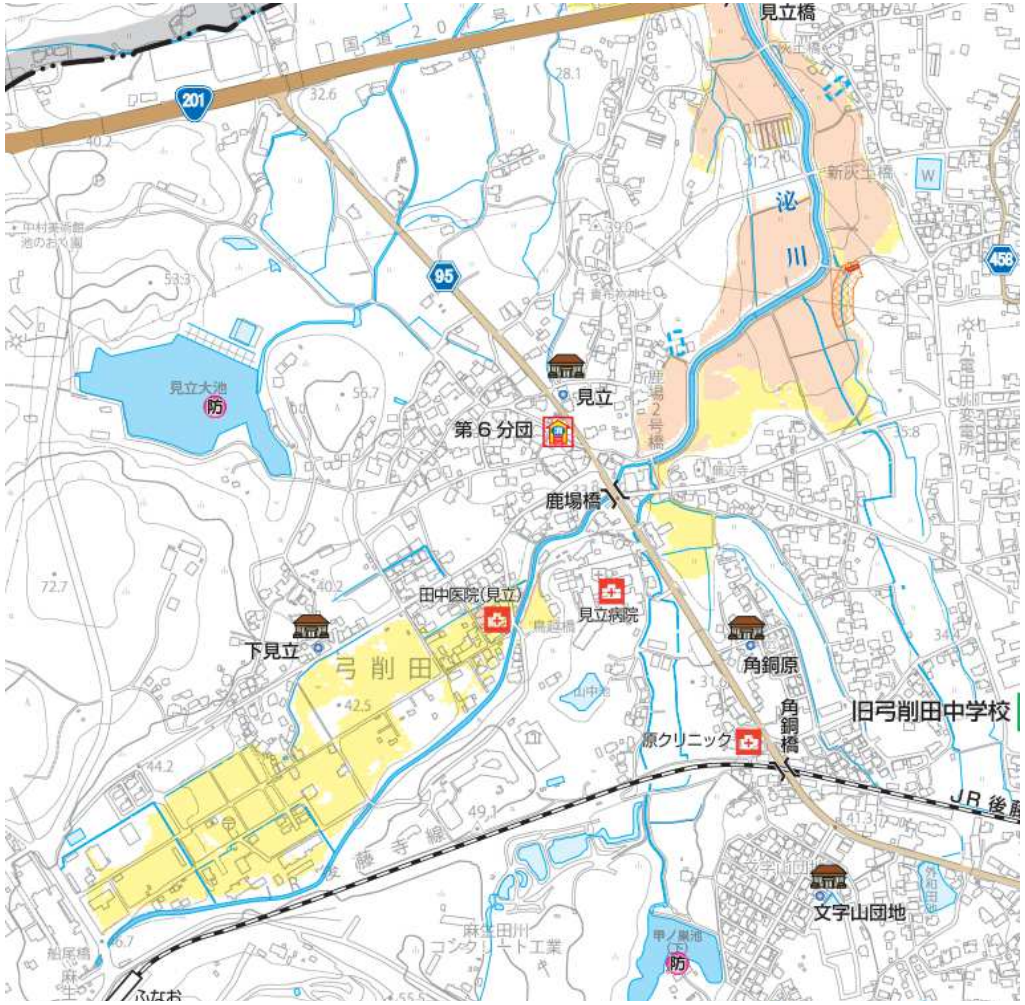
田川市 市民生活部 安全安心まちづくり課 防災安全対策室

電話：０９４７－８５－７１１４　担当：溝口、松田、大原

○県管理河川のリスクも地図に反映



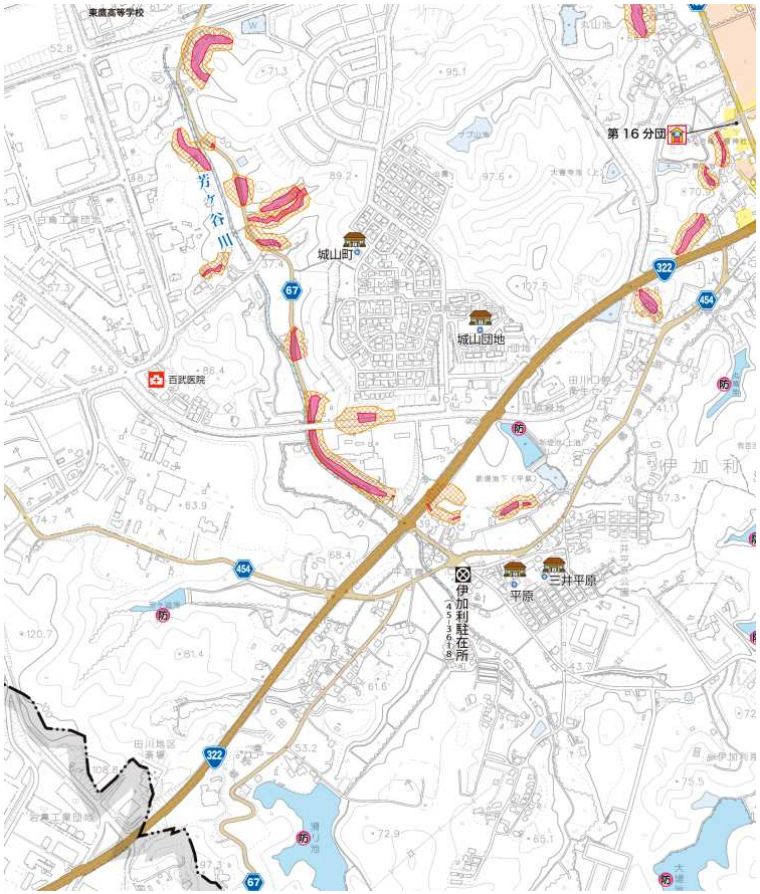
令和２年３月版



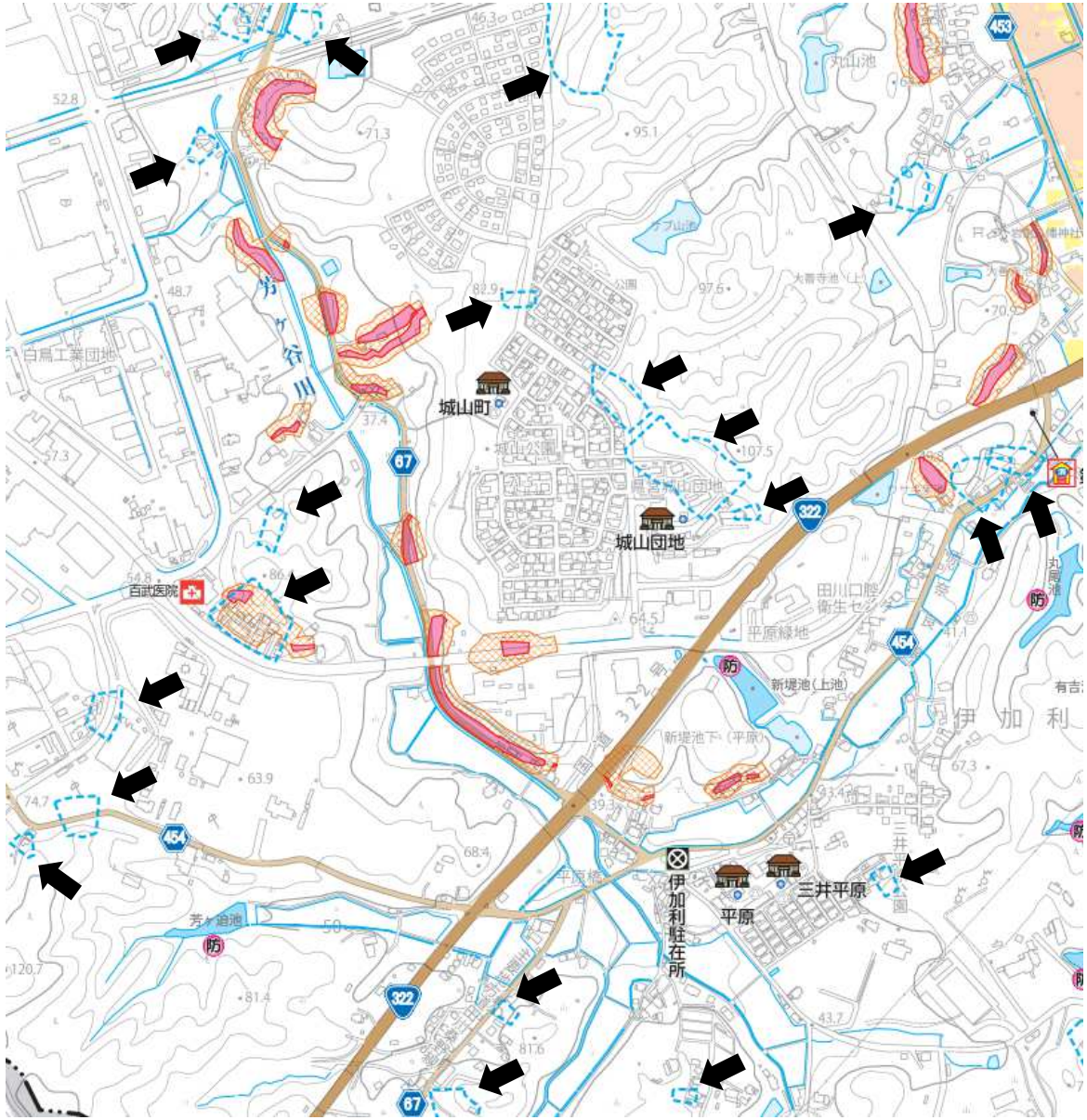
令和７年３月版

○土砂災害の可能性がある区域（未指定）も表示

矢印（ ➡ ）は今後調査予定の箇所



令和２年３月版



令和７年３月版